

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈 中・34 〉 いわき市立 勿来第一 中学校		
< 実施日 >	平成 27 年 12 月 1 日 (火)		
< 実践教科等 >	① 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 ()		
< 実践内容 >	<p>放射線等に関する基本的な知識について、いわき市の現状や霧箱の観察等を通して理解を深めるために放射線教育講座を行った。</p> <p>5, 6校時に2学年を、放課後に教員を対象に、いわき明星大学特任教授 石川哲夫先生による講義があった。</p>		
< 生徒対象の講義 >	<p>「福島第一原発事故の影響」、「放射線とは何か」、「放射性物質・放射能・放射線の違い」、「外部被曝と内部被曝の違い」、「食品に含まれる放射性物質の基準と健康への影響」、「放射線から身を守る方法」、「放射線の利用」以上の内容について講義があった。その後、実際に放射線を目で見てみようと言うことで、霧箱の観察を行い、放射線副読本の活用について説明があった。最後に事後アンケートを行った。</p>		
< 教職員対象の講義 >	<p>事前アンケートの実施。福島第一原発事故の概要説明、放射性物質・放射能・放射線の違いについての説明、α 線、β 線、γ 線の特性について、ヒトの放射線含有量について、放射線リスクおベネフィットについて、放射線から身を守る方法について、中学生に指導すべき放射線教育の内容について講義があった。その後、霧箱の観察を行い、放射線副読本の活用について説明があった。最後に事後アンケートを実施した。</p>		
< 成果 >	<p>放射線について、専門的に研究を行っている石川先生から放射線の特性や原発事故のあらまし、自然界や普段口にしていて食品にも放射線が存在し、その中で生活していることなどの話を聞き、正しい知識を身につけることができた。また、霧箱の観察から、放射線を目で見て観察することによって、さらに放射線についての関心が深まった。</p>		
< 課題 >	<p>指導する教師の知識量や授業実践の方法が乏しく、このような機会以外に継続して放射線教育を推進することができていないこと。</p>		
資料作成担当者職	(教諭)	氏名 (根本 竜太郎)	学校電話番号 (64-7221)